

ばんけい

教育ほつとにゅーす

かわら版

こ みち
教育の小径 No.127

2019 May

5月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

たで食う虫も好き好き

辛くて苦いたでを好んで食べる虫もいるように、人の好みはさまざまであることをいいます。たで(蓼)には、ヤナギタデ、イヌタデなどがあるそうです。

初任者への支援をいかに行うか

- 初任者にはさまざまな状況の人たちがいます。それぞれの実情とニーズを踏まえた、きめ細かい支援が求められます。
- 初任者には指導の技術を「教える」とともに、教師としての資質や能力を「育てる」ことを重視します。指導者は「ティーチング」と「コーチング」の両者を発揮します。

今月の
記念日旅の日
(5月16日)

1988年(昭和63年)、日本旅のペンクラブが制定しました。松尾芭蕉が奥の細道に出発したのは1689年3月27日で、この日は新暦の5月16日に当たります。

初任者の一般的な傾向性

毎年、新しく採用された教員が学校に配属されます。地域によっては初任者が急増しています。「初任者」としての時期は誰にでもある通過点です。周囲の人は温かく見守り、少しでも早く一人前の教師に育つよう、きめの細かい支援が求められます。

初任者には、大学を卒業してすぐに採用された人だけでなく、それまでに講師の経験のある人、企業や行政機関などで勤めてきた人などさまざまな年齢や経験をもった人がいます。事情はさまざまですが、教職に対する夢と目標をもち、期待を抱いて教師を目指してきた人ばかりです。ただ初めてのことも多く、不安や戸惑いを感じているのも事実です。

最近では、大学で授業に対する実践的なことをこれまで以上に学ぶようになってきました。学習指導案を作成したり、模擬授業を体験したりした人もいます。小学校や福祉施設などでボランティア活動に取り組んだり、教育委員会などが実施する養成講座に参加したりする人も増えてきました。初任者の多くは、指導方法に強い関心をもっているのが最近の傾向です。

初任者のなかには、アクティブ・ラー

ニングやカリキュラム・マネジメント、グループ・ワークなど、最近の新しい教育用語を使うことがあります。これは学校教育に強い関心をもっている証しですが、その意味内容や実践の方策までは十分に理解していないことが少なくありません。

教師としての即戦力が求められるようになったことから、大学では学校現場に直接つながる実践的な授業が多くなりました。しかし、一方で、教育の理念や哲学など実践の裏付けとなる知識の習得が不足している状況が見られます。ここが、ひと昔前までの初任者とは大きく違うところです。初任者の指導に当たっては、こうした状況を踏まえることが大切です。

指導理念をもってアドバイスを

初任者にもさまざまな事情がありますから、それぞれの初任者の実態を把握することが「はじめの一步」です。大切なことは、いまどのようなことに悩んでいるのか。指導上、困難を感じていることは何かを知ることです。悩みや課題などは本人から直接聞くこともできますが、教室や授業を観察すると察知することができます。

育てるとか指導すると聞くと、どうしても教える姿勢が強くなります。し

かし、教えたいことを話しても、相手に受け入れる体制がなければ十分に伝わることはありません。初任者の悩みやニーズを踏まえ、初任者が知りたいこと、聞きたいことを分かりやすく伝えることがポイントです。

指導者には、初任者の心情を察する鋭敏な感覚が求められます。その意味でこれからの指導者は指導技術を教える「ティーチャー」であるとともに、資質や能力を育てる「コーチャー」になることが求められるでしょう。

初任者は指導方法に強い関心をもっています。例えば「対話的な学び」と聞くと、「個人で考える」→「グループで交流する」→「学級に発表する」といった学習形態を連想し、形を優先した授業を展開する傾向があります。ここで重要なことは、なぜこの場面です「対話的な学び」を取り入れるのか。目的やねらいを明確に意識したうえで取り入れることです。指導方法が目的化しないように指導します。

初任者は教育の新しい動きにも敏感です。新しい教育課題に挑戦することも大切ですが、まずは授業の「不易」を重視します。初任者の時期には、授業構成の仕方、発問や指示の組み立て方、子どもの発言の引き出し方や生かし方、板書の構成の方法など授業づくりの基本をしっかり身につけさせます。

連絡事項にミスがあった

帰りの会で「連絡帳」に翌日の持ち物を書かせています。しかし、うっかりして連絡すべきことを忘れてしまいました。このようなときどうしたらよいのでしょうか。

帰りの会で翌日の予定や持ち物を書かせている学級は多いようです。記憶に頼らせるのではなく、「連絡帳」などに記録させることはとても大切なことです。それでも子どものなかには忘れて来る場合があります。この事例は担任が言い忘れたのですから、子どもたちには一切責任がありません。

学校として、緊急連絡のための名簿が作成されている場合には、それを活用して連絡することができます。最近では、個人情報保護の観点から、家庭の電話番号を公表していなかったり、名簿を作成していなかったりする学校も多いと聞きます。

学級担任が各々の家庭に連絡することも考えられますが、そのまえに、その持ち物がないと翌日の授業ができないなど、急を要するものかどうかを判断します。学校にあるもので代替ができる場合もあるでしょう。それを使った授業を先送りすることも考えられます。さまざまな選択肢のなかからもっとも適切なものを決定します。

翌日の学校行事などに関連していたり、どうしても必要だったりして変更ができない場合もあります。担任だけで判断ができない場合には、学年の先生や管理職に相談します。よい助言が得られるかもしれません。保護者には周囲の人からアドバイスを得てから対応しても遅くはありません。

教育の動向

「元号」の指導

5月1日に元号が「平成」から「令和」に改められました。新しい時代の幕開けです。新元号の出典は、「万葉集」の「初春の令月にして気淑く風和らぎ 梅は鏡前の粉を披き 蘭は珮後の香を薫らす」にあると説明されています。「令和」には、梅のように咲き誇る花を咲かせる日本でありたいという願いが込められています。日本の古典が出典になったのは初めてです。

学校では、元号に関する指導がどこで行われるのでしょうか。新学習指導要領（社会科）の3年には「市の移り変わり」の学習に関連して、年表など

にまとめる活動を求めています。その際に「時期の区分について、昭和、平成などの元号を用いた言い表し方があることを取り上げること」と示されています。鎌倉時代、江戸時代などの名称とは異なった時代区分です。

元号は歴史学習でたびたび登場します。645年の大化の改新という歴史的な事象が取り上げられています。現代に続く元号が正式に制定されたのは、「大化」が初めてだとされています。大宝律令、承久の乱、応仁の乱、天保の改革などの名称には、当時の元号が用いられています。

現在、元号を使用しているのは日本だけです。元号はわが国固有の伝統であり、文化であると言えます。一世一元になったのは明治以降です。



「思考力・判断力・表現力」の

指導と評価

その7

育て方① 活動・体験をとおして

学びの神髄は学び手の為すことにあります。為すことが目的ではなく、為すことをとおして、より有益なものを学ぶことができるからです。このことは、思考力、判断力、表現力といった目に見えにくい能力を育てる際にも例外ではありません。

思考力は、子ども自身が実際に思考するという活動をとおして育っていき、判断力も、子どもが判断することなく、育つことはありません。表現力は表現活動と深い関わりがあります。

授業において思考する活動を取り入れるためには、思考するとはどのような営みなのかを明確にする必要があります。思考という行為は、目に見えた事実や事象、習得した知識や経験などをもとに、概念や法則、原理など目

に見えないものを導き出すことです。学びに深まりをつくることです。

ここでは、事実や事象などを操作する活動が行われます。例えば、結びつける、比べる、分類する、まとめる、具体化する、たとえる、整理する、推理する、仮定するなどの手法で操作します。こうした活動をとおして、新たなことを発見したり、それまで気づかなかったことに気づいたりします。

実際の授業の場では、これらの活動を教科や教材の特質を踏まえて意図的に組み入れ、子どもに思考を促します。思考力とは創造力や構想力であり、想像力でもあります。ここでは、論理性や科学性、客観性などが求められ、その子らしい感性や考え方が発揮されます。こうした活動を繰り返し体験することによって、考えることが好きな子どもが育っていきます。

INFORMATION

ぶんけいテスト 教師用付属ROM

得点集計・個人別診断ソフト 2019

年間指導計画作成機能でカリキュラム・マネジメント

年間指導計画作成機能 ご利用の3ステップ

1. ワンクリックで単元情報を読み込み。
2. 教科横断的に、各単元を要素で分け。
3. 色分けを参考に、単元入れ替え・時数の調整も簡単設定!

さらに! 週案簿作成機能と連動

- 年間指導計画から、週案簿に単元名・めあて・時数を自動で読み込み。
- 授業実施後の振り返りをメモし、年間指導計画に反映。
- 次年度への引き継ぎ資料に最適!

編集後記

年間指導計画や週案簿など、データで作成し授業実施後の振り返りを細かくメモしていくことで、次年度にもち越せ、担任の先生の足跡を学校の財産として残せます。先生の世代間ギャップを埋めるためにも積極的にICTを利用したいものです。(K記)



企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2019年5月1日